

心の免疫力

2020.7.8

中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症であるが、この感染症も20年前なら中国一地方の風土病で終わっていたかもしれないと言われている。それが全世界に及んだのは、中国が「世界の工場」になっていることと無縁ではないだろう。加えて、中国が国を挙げて推進してきた一帯一路政策も感染に拍車をかけたとも言える。新型コロナウイルスは、図らずも一国の動きが全世界と密接につながっていることを明らかにするものとなったわけである。

歴史を振り返ると、人類は幾度ももの危機に遭遇しながら、その都度危機を乗り越え、今日まで歩んできた。つまり、現在の状況は必ず克服されることを歴史は私たちに教えてくれている。そのために大事なものは何だろうか。

感染症のウイルスは身体に忍び込むが、同時に心に忍び込もうとするウイルスがある。困難に耐え努力する心をむしばむウイルスである。心の免疫力を高めなければならない。その何よりの特効薬は、よき言葉、よき教えに触れることではないだろうか。

122歳まで生きたジャンヌ・カルマンは長生きの秘訣を問われ、「二つあります。笑うこと。退屈しないこと」と答えている。122歳まで元気に生きた人は心身のウイルスに勝ってきた人であり、そういう人の言葉には力がある。こういう言葉に触れることは心の免疫力を高める。感謝すること、感動することも心の免疫力を高める要素となるだろう。

坂本真民さんの詩も心の免疫力を高めるにはいいかもしれない。

人間が真の人間になるためには いくたびかの試みに会わねばならぬ
試みには 神の試み 悪魔の試みがある
いずれにしても いくたびかの試みに会って 初めて人は本ものになる

他にも「仏のこころ」と題したこういう詩もある。

追いつめられて 初めて人間は 本ものになる
だから本ものになるためには 絶体絶命の瀬戸ぎわに 立たされねばならぬ

少し趣を変えて、宮沢賢治『注文の多い料理店』序には、次の一文がある。

わたしたちは、氷砂糖をほしいくらいもたないでも、
きれにすきとおった風をたべ、桃いろのうつくしい朝の日光をのむことができます。

思えば、人類の歴史はウイルスとの闘いの歴史であった。その闘いに打ち勝って、あるいは共生することで、人類は前進してきた。どんな困難にも屈しない。百遍倒れたら百遍立ち上がる。それが人類のDNAである。このDNAをフルに発揮し、この苦境を克服したい。